

平成 27 年度認知症介護研究・研修仙台センター運営事業費による研究事業

在宅介護者及び認知症者の早期支援 と支援者育成に関する研究

報告書

平成 28 年 3 月

社会福祉法人東北福祉会
認知症介護研究・研修仙台センター

目次

はじめに

研究実施体制

I. 研究概要

- 1. 研究の目的 1
- 2. 方法 1
- 3. 倫理的配慮 2

II. 研究結果

- 1. 市区町村自治体等で実施される家族会等の参与観察 3
- 2. 国内の認知症カフェの事例収集 7
- 3. オランダ、イギリスの認知症カフェの現状 21
- 4. 家族会等の実施者担当者の認知症カフェ情報共有研修の実施 27

III. 研究の整理

- 1. わが国の認知症カフェ実践への示唆 41
- 2. 認知症カフェのタイプと目的 41

謝辞

はじめに

平成27年1月に「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」を発表した。同計画では、これまでの病院・施設を中心とした認知症ケア施策を、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる在宅中心の認知症施策へシフトすることを目指し、地域で医療や介護、見守りなどの日常生活支援サービスを包括的に提供する体制づくりについてより具体的な数値目標を示し、省庁横断的な総合戦略を目指している。

新オレンジプランにおいて7つの柱が示され、その一つに「4. 認知症の人の介護者への支援」があり、介護者支援の方向性が示された。ここでは、「認知症の人の介護者への支援を行うことが認知症の人の生活の質の改善にも繋がる」ことから介護者の生活の支援にも力がそそがれる方針が示された。具体的には、認知症カフェ等の新たな取り組みの推進とその設置運営にあたって地域支援推進員が担うことは明記されたが、その認知症カフェの具体的な方法については、現段階では明記はされていない。家族支援については、従来から市町村自治体や地域包括支援センターにおいて展開される「地域支援事業（任意事業）」による介護者交流会や介護者講座、またはインフォーマルなサービスである「認知症の人と家族の会」が実施する「つどい」などがあり以前から実践が積み重ねられている。認知症カフェは新たな取り組みであり、これらとの役割や方法との違いについていまだに混乱している担当者も多く、あわせて参加する家族や本人、地域住民に明確に説明がなされていない状況にある、

そこで、本研究ではあらためて、従来から実施されている家族会の情報を詳細に収集し、加えて認知症カフェとの位置づけを明確にしたうえで、早期支援に携わる支援者育成に必要な資料を集め整理することを目的に実施した。

本研究では、家族支援に携わる担当者の家族支援に関する交流会を開催し情報の集約とその交換を一つの目的とし参加者それぞれの資質向上に関するきっかけとなることを期待している。

今回明確な事業や研修の効果を測定することは行っていないが、それぞれが抱える家族会・介護者交流会等の具体的な課題、そして、諸外国の認知症カフェと国内の認知症カフェの事例を収集し現段階での整理することができた。本報告書では、その成果をまとめ、今後の家族支援につながる家族会、介護者交流会、そして認知症カフェが実施されるための資料となることを目指したものである。

認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司